

# 小児科専門医研修ネットワークプログラム

## 1 はじめに

プログラムリーダー 静岡県立総合病院 小児科主任医長 原崎正士

小児科専門医を目指す皆さんを心から歓迎いたします。こどもの健康と未来を支えていく専門職として、ともに手を携えて研鑽しましょう。

小児科専門医の役割は、子どもが罹患する疾患への対応のみならず、子どもの健全な発育を総合的に支援することです。小児医療および小児科専門医に求められる保健や医療に関わる問題は広範囲に広がりつつある一方で、小児科領域においても医療の高度な専門化がすすんでおり、1ヵ所の施設での研修ではごく限られた内容となる可能性があります。

静岡県中部地区では県立こども病院を中心に、高度先進医療から小児保健や一般小児科診療まで、各施設の特色を生かした幅広い臨床経験を積むことができます。



## 2 目的

小児科医を目指す後期研修医が、静岡県中部地区の病院をローテーションしながら幅広い臨床経験を積み、研修終了後には小児科専門医を取得することです。

## 3 特徴

小児科医としてのトレーニングは一つの病院だけでは完結できません。本プログラムは、静岡県中部地区の個性的なスタッフを擁する複数の施設が協力して作ったものです。例えば、二次医療施設での一般小児科の研修と、こども病院での NICU、PICU、および興味のある専門科のローテーション研修との組み合わせ、といったオーダーメイドのプログラムが組めることが魅力です（「5. 研修例」参照）。

小児科専門医資格の取得を視野に入れていますが、それに必要な経験症例と臨床能力は自ずと得られるはずで

尚、静岡中部地区のみならず、県全体で同様のプログラムがあります。併せてご検討ください。

(<http://www.fujinokuni-doctor.jp/kenshui/kensyu/index.html>)

## 4 研修カリキュラム

日本小児科学会「小児科専門医臨床研修手帳」に準じます

### 5-1 研修例

各病院での研修期間は基本的に1年間としますが、短縮(最低6ヶ月間)も可能です。専門医研修支援施設である静岡県立こども病院での6ヶ月間の研修が必修です。

## 【例】

1年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	藤枝市立総合病院											
2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	市立島田市民病院						静岡県立こども病院					
3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	静岡県立総合病院											

## 5-2 提供される研修機会

- ・ 症例検討会（病理・画像カンファレンスを含む。）
- ・ 抄読会若しくはセミナー
- ・ 学会提供の教育プログラム参加
- ・ 学会参加
- ・ 研修病院合同の症例検討会、勉強会（年3回程度）

## 5-3 取得可能資格

- ・ 日本小児科学会専門医（初期研修を含め5年間の研修終了後）

## 6 研修病院群

### 1) 研修支援施設

#### 静岡県立こども病院の特徴

1977年に全国で6番目のこども病院として設立され、2007年に小児集中治療センター、周産期センター、2008年には児童精神科(こころの診療科)、救急総合診療科が開設されました。

病床数は279床、うち41床がICUとしての機能を果たしています(PICU 8床、CCU 12床、NICU 15床、MFICU 6床)。臓器別の各専門診療科は、それぞれがその分野をリードすべく研鑽を重ねており、小児集中治療科、救急総合診療科においては臓器にとらわれない総合的かつ高度な医療の提供を目指しています。

現在、毎年5名程度の後期研修医を受け入れ、研究研修委員会、救急総合診療科を中心にその指導に当たっています。一次救急から三次救急までを経験出来ること、同時に高度な専門診療を学ぶことが静岡県立こども病院で研修する最大のメリットです。また、シドニーのThe Children's Hospital at Westmead 救急部での短期研修も含めた幅広い活動、研修を通して視野の広い小児科医の育成をめざしています。

### 2) 研修施設

#### 静岡市立清水病院の特徴

専門医 上牧 務 (1989年卒)

明貝 路子 (2003年卒)

当科での小児科研修は「小児科医として多くの成功を体験する」という点を重視しています。「ベビーの点滴がうまく入った」、「腸重積の整復ができた」、「虫垂炎の診断ができた」、「学会発表でうまく質問に答えられた」などの成功体験が小児科医としての自信を少しずつ深めてくれると考えています。そのためには上級医、指導医が一体となって

研修環境を整える必要があります。われわれはその努力を惜しみません。

当院では毎年数名小児科後期研修医を受け入れています。その経験が生かされて当科の教育システムは非常に完成度の高いものになっています。ぜひわれわれと一緒に多くの成功体験をしませんか。

### 静岡済生会総合病院の特徴

専門医 福岡哲哉（小児科部長 1988年 島根医科大学卒）

杉浦崇浩（新生児科科長 1997年 名古屋市立大学卒）

森下雄大（2003年 琉球大学卒）

人口 21 万の静岡市駿河区にある、病床数 534 床の総合病院で、小児科の規模は、小児病床 16 床、新生児病床 17 床（NICU 6 床、GCU11 床）計 33 床です。一般小児疾患に関してはアレルギー疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、腎疾患、心疾患など幅広く診療しています。近隣の開業医の先生と連携し入院患児も数多く紹介いただいております。新生児疾患は在胎 30 週以上、1000g 以上の病的新生児を院内、他院からの紹介を併せて診察しています。静岡県立こども病院との人材交流も行っており、専門医療と総合医療の互いの利点を共有し会う関係を保っております。

### 静岡赤十字病院の特徴

専門医 西澤和倫（1991年 新潟大学卒）

大河原一郎（2000年 慶應義塾大学卒）

静岡市内の中心部にある総合病院です。当科の研修では common disease の研修を基本としつつも小児専門医療の研修も同時に行えることを特徴としています。common disease は外来診療・救急医療・乳児健診・予防接種等の日常診療を行う中で知識・技能を高めていきます。当科は子どもの心の問題に力を入れていますので、これらの疾患の知識・技能・経験を特に深めることができます。新生児では在胎 32 週以上出生体重 1500 g 以上を対象としています。

また、慶應大学より非常勤医師を招き、神経疾患・内分泌疾患・循環器疾患の診療を行っていただくことにより、一般病院にしながら小児専門医療の知識・技能・経験を深めることができるようになっています。

### 焼津市立総合病院の特徴

専門医 稲富 淳（1993年 東京大学卒）

柳澤敦広（1995年 浜松医科大学卒）

増井礼子（1998年 浜松医科大学卒）

優秀な医師を育てるためには厳しいトレーニングが必要です。

当院小児科は地域基幹病院の小児科として、あらゆる症例に対応しています。急性疾患のみならず、神経・腎・内分泌等の慢性疾患の診療や、人工呼吸管理も行います。また、産婦人科が多数のハイリスク分娩を取り扱っているため、新生児症例も豊富です。

それらの年間 1,200 名を超える入院患者を科長 2 名を含む 6 名の病棟医（実質 4.5 人程度？）で分担しています。そして、それぞれの症例に対してしっかりと病歴聴取、アセスメント、カルテの記載を要求します。仕事は相当きついと思いますが、こうして培った実力は医師としての大きな財産になるはずです。

そんな私たちと一緒に仕事をしてみたい、という硬派体育会系の諸君をお待ちしています。

## 藤枝市立総合病院の特徴

専門医 香川二郎（1978年 東京大学卒）

伊東充宏（1990年 群馬大学卒）

朝倉 功（1999年 東京大学卒）

齋藤 祐（2003年 東京大学卒）

～最高の二次病院をめざして～

### ☆多彩なスタッフ

昨年までの二人の副院長も小児科医であり、それぞれ内分泌、腎泌尿器のプロフェッショナルです。小児外科医である私と併せ、非常に多彩なスタッフです。また超音波科をはじめとするコメディカルも充実しています。

### ☆地域との密着

虐待対応、健診、予防接種等にも行政に協力して積極的に関与しています。

時間外診療では地域の先生方に当院へ診療応援に来ていただいています。さらに周辺の開業産科施設での分娩立会や新生児診察等、理想的な病診連携システムが構築されています。

### ☆余裕のある勤務

スタッフ数が多く、勤務体制に余裕があります。

## 3)研修関連施設

### 静岡県立総合病院の特徴

専門医 原崎正士（1992年 三重大学卒）

静岡市内にある病床数 720 の総合病院です。一般小児科診療では開業医の先生方と連携を図り、小児の入院患者を受け入れています。市内の病院において輪番制により夜間休日の一次・二次救急診療を担っています。当科では臓器専門医養成のための研修ではなく、小児科医として幅広い総合的臨床能力を身につけるための研修ができると思います。最近では病棟保育士や看護師と協力して、小児医療の中に遊びを取り入れながら病児における精神的負担の軽減を図っています。病院の理念は「信頼し安心できる質の高い全人的医療」です。

### 静岡市立静岡病院の特徴

専門医 五十嵐健康（小児科科長兼新生児科科長 1990年 山梨医科大学卒）

酒井秀政（2002年 京都大学卒）

静岡市葵区の小児科二次医療全般を担う中核病院です。当小児科では、小児期特有の多種多様な内科的疾患を対象としており、多岐にわたる疾患を偏りなく経験することができます。また、予防接種・乳児健診などの予防医学、小児保健分野についても行っております。

指導医の専門分野ですが、五十嵐科長は新生児・未熟児疾患、酒井医長はアレルギー・免疫疾患の専門的診断治療を修得しております。これら専門分野以外についても診療・指導は可能ですが、複数の非常勤医師による診療応援・交流も含め、密な連携を心がけています。

静岡市内時間外二次救急輪番制に参加しています。重症疾患は、静岡市内の三次医療機関（静岡県立こども病院・国立静岡てんかんセンター）と連携して診療しています。

静岡駅・駿府城公園にほど近い環境です。学会・研究会参加も積極的に行っています。

## 市立島田市民病院の特徴

専門医 黒川啓二（1995年 京都大学卒）

磯目賢一（2005年 関西医科大学卒）

武藤庫参（1981年 京都大学卒）

人口10万人（小児1万人）の島田市内の唯一の総合病院。志太榛原地区4病院（藤枝、焼津、榛原、島田）で連携しつつ、市内のみならず近隣（牧之原市、吉田町など主に大井川流域）からの小児入院患者も受け入れています。在胎30週以上の新生児受け入れ可能（人工呼吸管理可能）。完全紹介制ではなくプライマリケアから広く小児医療に関わることが可能ですが、より高度な医療が必要な場合は適切な時期での高次医療機関（主に静岡県立こども病院）への搬送を心掛けています。当科での後期研修の際には、希望に応じて救急チーム参加が可能です。

## 7 年間症例実績

平成 25 年 1 月～12 月に小児科専門医試験に必要な症例要約 10 分野について、  
3 症例以上あれば◎、1～2 症例は○、無は×

	静岡県立こども病院	静岡市立清水病院	静岡済生会総合病院	静岡県立総合病院	静岡市立静岡病院	静岡赤十字病院	焼津市立総合病院	藤枝市立総合病院	市立島田市民病院
1. 遺伝子疾患・染色体異常・先天奇形	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
2. 栄養障害・代謝性疾患・消化器	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
3. 先天性代謝異常・内分泌疾患	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
4. 免疫異常・膠原病・リウマチ性疾患・感染症	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
5. 新生児疾患	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
6. 呼吸器疾患・アレルギー	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
7. 循環器疾患	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
8. 血液疾患・腫瘍	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
9. 腎泌尿器疾患・生殖器疾患	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
10. 神経筋疾患・精神疾患(精神行動異常)・心身症	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
入院数(年間)	4,857	553	885	514	214	276	1,356	1,181	582
外来患者数 (小児・年間・のべ人数)	100,481	14,716	16,261	5,860	3,324	9,805	16,958	16,285	11,319
救急受診者数 (小児・年間・のべ人数)	2,592	1,130	1,719	1,350	625	903	4,673	3,113	2,440

\* 統計方法などに若干の差があります。単純比較はできないことを御承知下さい。

## 8 研修者の要件及び処遇

募集人数：2名程度/年間（未定）

処遇：研修を受ける病院の医師処遇による。

## 9 研修終了後の進路

- (1) 病院群病院への就職
- (2) 病院群以外の病院への就職
- (3) 大学院等へ進学
- (4) 国内・海外留学 など

## 10 プログラム運営委員（◎：プログラムリーダー）

### ◎ 静岡県立総合病院 小児科主任医長 原崎正士（1992年 三重大学医学部卒）

2000年より静岡県立総合病院で勤務しています。それ以前は基礎医学（免疫学）の研究室で過ごしていた時期もありました。いつの間にか臨床において指導する立場になりましたが、日々多くのことを研修医からも学んでいます。お互いに研鑽していきましょう。



### ・ 県立こども病院 救急総合診療科科長 関根裕司（2000年 杏林大学医学部卒）

大学卒業後、静岡県立こども病院にて初期研修、同院腎臓内科勤務。母校の大学院卒業後現職にいたります。

静岡県立こども病院における小児科後期研修は、救急総合診療科による小児救急、総合診療を通じた基本的小児科疾患の研修と各専門診療科による専門性の高い研修の両立が最大の特徴です。研修医一人一人の経験や希望に合わせて柔軟性のあるプログラム作成を行い、救急総合診療科スタッフがマンツーマンで研修をサポートします。また一般小児科から様々な合併症を抱えた難しい患者さんまで様々な経験もでき、静岡県の小児科最終基幹病院として病診、病病連携を意識した診療も体験していただけます。



### ・ 静岡市立静岡病院 小児科医長兼未熟児室科長 五十嵐健康（1990年 山梨医科大学（現山梨大学）医学部卒）

静岡市出身です。

静岡県立こども病院にて初期研修、その後同院遺伝染色体科・新生児科で研修・診療を行った後、現在に至ります。

僕自身、赤ちゃんから思春期まで、幅広い対象の幅広い疾患に対応できる医師を目指して毎日を送っています。

静岡には、このプログラムに参加されている先生方をはじめ、素晴らしい先生方が身近に多くいらっしゃいます。

皆さんと共に学び、共に患児・ご家族の幸せのために診療する毎日を送ることができれば、それが僕自身の幸せです。



・ 静岡市立清水病院 小児科科長 上牧 務 (1989年 秋田大学医学部卒)

当科での小児科研修は「小児科医として多くの成功を体験する」という点を重視しています。「ベビーの点滴がうまくいった」、「腸重積の整備ができた」、「虫垂炎の診断ができた」、「学会発表でうまく質問に答えられた」などの成功体験が小児科医としての自信を少しずつ深めてくれると考えています。そのために上級医、指導医が一体となって研修環境を整えています。さらに当科の医師派遣元である慶應義塾大学小児科学教室からも手厚いサポートを受けています。インターネットを介しての双方向カンファレンス、大学で行われている講演会、レクチャーをオンデマンド方式で視聴することができ静岡にいながらにして大学の最新情報を共有することが可能です。当科では毎年、小児科後期研修医を受け入れています。その経験が生かされて当科の教育システムは完成度の高いものになっています。是非、われわれと一緒に多くの「成功体験」をしませんか。



・ 静岡済生会総合病院 小児科部長 福岡哲哉 (1988年 島根医科大学卒)

静岡県富士市出身です。卒後浜松医大小児科に入局し、大学付属病院勤務後、県内の一般病院および静岡県立こども病院では、新生児未熟児科 循環器科にて研修した後、2001年より13年間、JA静岡厚生連清水厚生病院小児科に勤務し、2013年10月より当院に赴任して参りました。

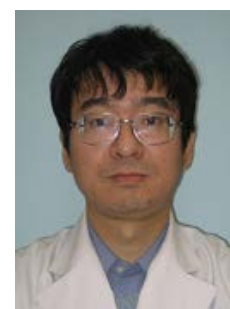
未来を創るこども達のために、県立こども病院と連携しながら、微力ながらこちらの地域で小児医療の一端を担えればと思っております。また付設されている医療福祉センターの神経専門医や大学教授、准教授の外来も定期であり、指導を受けることも可能です。

NICUが稼働しているので、多くの小児科医で様々な症例を経験し、負荷にならない労働環境を確保して、有意義な研修になればと考えております。



・ 静岡赤十字病院 小児科部長 西澤和倫 (1991年 新潟大学医学部卒)

静岡県静岡市出身です。出身大学のあった新潟県で16年間勤務した後、2007年に静岡に戻ってきました。アレルギーを専門としてきましたが、最近は発達障がいやこどもの精神疾患に取り組んでいます。私の夢は娘が小児科医になって、いっしょの病院で働くことです。小児科医の生活が幸せでないと娘も小児科医を目指そうという気にならないと思います。そのためにも小児科医の働く環境の整備に努めたいと考えています。私たちといっしょに働きませんか？





・ 市立島田市民病院 小児科部長 黒川啓二（1995年 京都大学医学部卒）

三重県津市出身。3年間の研修終了後、静岡県立こども病院で循環器少々と内分泌代謝疾患を学び大学院を経て島田に。京大NICUでの豊富な経験を持つ、頑固者の磯目先生と少数精鋭？で充実した日々を過ごしています。2013年からは、外来診療のみですが武藤先生も常勤として復帰しました。

島田は田舎なので症例数は少ないですが、2～3年あれば一通りの小児疾患を経験することが可能です。自分自身が担当する症例数が多い分、「やらされている」とか「そばで見てるだけ」ではなく、「(自分で)やっている」実感があって、身に付くものは大きいと思いますよ。



・ 焼津市立総合病院 小児科長 稲富 淳（1993年 東京大学医学部卒）

優秀な医師を育てるためには厳しいトレーニングが必要です。

そして若い医師たちは、指導医である私が驚くほど、激務によく耐え、成長してくれます。

「すみません。点滴が入りません。」と言っていた彼らとも、すぐに立場が逆転します。

「〇〇先生、この子の点滴入れておいて。僕は外来だから。」

〇〇先生が見ると、その子の手に私が失敗した跡が・・・。

そう。彼らはずっと沢山の急患や未熟児の対応で鍛えられているのだ。でも研修は辛いだけじゃないさ。毎月最後の金曜日は、駿河湾の近海物のおいしいお寿司を食べに行こう（おごりじゃないけど）。



・ 藤枝市立総合病院 小児科部長兼新生児集中治療室長 伊東充宏  
（1990年 群馬大学医学部卒）

「こども（患者・他人）を幸せにするためには自分が幸せでなければいけない」と思います。余裕のある勤務を背景にさらにもう一つ、何か興味のあること（仕事でも・仕事以外でも）を習得・経験していただければ、嬉しいと思います。2011年4月より分娩が再開し、分娩休止中に近隣の先生方と素晴らしい連携システムを作り上げました。

出張分娩立会を始めとして、他の病院では経験できないことがたくさんあると思います。従来の大学派遣型の研修では、けっしてできない研修ができると思います。静岡は気候も良く、食べ物も美味しく、お酒も豊富です。皆さんが、僕たちの新しい仲間になることを心からお待ちしています。

